

# 地域に必要なもうひとつの家とは

## ～はっぴいわん大府での5日間の活動を経て～

活動先：はっぴいわん大府

### 1. 活動先紹介

今回私たちが活動した大府市共西町の住宅地にあるはっぴいわん大府とは、理事長である久保田さんの「高齢になっても暮らしやすい町にしたい」という想いが原点となって生まれた。もともとは常滑市で気軽に立ち寄れる食堂「はっぴいひろば」をやっていたが、久保田さんを含め多くのスタッフさんが大府市に住んでいたため、大府市に創ることになり、その際法人格を取得した。そしてそこでは、高齢者のための楽しいたまり場を作り、最後まで生きがいを持って皆ピンピンコロリといけたらいいねという理念の下、そのような仕組みを創造していく団体である。最終的には、はっぴいわん大府が町の皆で支える「いつ来てもいい、いつ帰ってもいい、もうひとつの家」となり、助け合いの仲間作りができる地域にしたいと思っている。総会員は、市の社会福祉協議会や市役所の福祉課の職員の方を含め多くの方が登録しており、活動当時で 139 人である。また、外観からは想像できないほどお洒落に改造された部屋で、のんびりくつろげる空間である。

活動内容は、毎日違うスタッフが作る昼食の提供や、月に何日か行われているボールペン画、手相教室などの NPO 自主事業である。また、ミニギャラリーとしてはっぴいわん大府内には、地域の方が描いた絵手紙やボールペン画などの作品が展示されていたり、手作りの小物や野菜が販売されていたりしており、地域の方が気軽に立ち寄ることができる居場所として大変大きい役割を果たしている。

### 2. 当初の活動目的や目標

はっぴいわん大府で行っているさまざまな NPO 自主事業を利用者の方と一緒に参加していく中で、生きがい作りとはどのようなものなのか、また直に利用者の方と触れ合うことでその意義について考える。そして、ボランティアとして関わっているスタッフの方がどのような想いで活動をしているのかを知る。最終的には、市民や地域が求めるものとは何か、はっぴいわん大府の存在意義について確かめる。

### 3. 自分たちの活動内容

- はっぴいわん大府に来た地域に住む高齢者の方との折り紙などを通しての交流
- 理事長やボランティアとして働くスタッフの方との交流

- はっぴいわん大府が行っている食堂や喫茶の手伝い
- はっぴいわん大府内の掃除

#### 4. 活動における問題点・課題

今回の活動ではあまり自主的に動くことができず何をしたらいいのか分からない時間があつた。そういった時間をなくすためにも、自分たちが利用者さんのためにできることは何か、そして目的を果たすためにどのような活動をしていくのかをもっと事前に計画を立て明確にする必要があつた。また、スタッフさんや利用者さんと話す機会が多くあつたにも関わらず、あまり質問ができなかつた。はっぴいわん大府がある地域の問題や、NPOについてもっと学習が必要だつたように感じる。そして、知りたいこと、興味に思つたことがあつたら積極的に質問するという自ら学ぶ姿勢を大切にすべきであつた。

また、利用者さんとのコミュニケーションの取り方が課題だと感じた。なかなか話題を見つけることができなかつたときもあつたので、共通の話題を見つけるためにも地域の特色などをもっと知っておくべきだと思つた。

#### 5. 活動を通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

- 学んだこと

##### ①生きがいの意義

はっぴいわん大府に集まる人たちの笑顔や楽しそうな様子を見て、どんな些細なことでも生きがいに繋がっていくと学んだ。絵手紙や折り紙、手芸など自分の好きなことを楽しむのが生きがいになっていく。そして、今まで家で一日中ひとり過ごしていた人にとってはみんなが集まることができる場所に行き、そこで楽しく話ができるのも生きがいである。またスタッフさんは、ボランティアをする理由に対して口をそろえて楽しいからと言つていた。色々な人と会い話ができると楽しいと思つているのは利用者さんだけでなくスタッフさんも同じことであつた。スタッフさんにとつてもはっぴいわん大府での活動が生きがいになっていることを知り、ここでの生きがい作りがけして一方通行ではなく、そこに集まる皆が相互に助け合い触れ合うことで、それぞれの生きがいになっていることを実感できた。それと同時に、生きがいとはそのように生まれるものだと学んだ。

##### ②居場所の大切さ

高齢化が深刻な問題になっている中、より地域に住む軽度の障害をもつた高齢者の方や元気な高齢者の方にとっての居場所が少ないという問題があり、またこれからそのような立場になる団塊世代にとつても将来的にそのような居場所が必要だということを知つた。もし、はっぴいわん大府がなければ、スタッフさんや地域の方はこのような良い関係になつていなかつたかもしれないし、高齢者の方は生きがいを見つけられず、毎日退屈に過ごしていたかもしれない。そう思うと地域に気軽に集まれ助け合える仲間作りの居場所が、

これからより必要になっていくと活動を通して気付くことができた。

また、はっぴいわん大府という居場所の役割が、毎日楽しくおしゃべりができ、おいしいご飯を食べながら皆で交流するだけではなく、その中で自然と地域の情報交換が行われていくことだと分かった。そして、そこから些細なことであっても困ったことがあれば利用者さん同士やその家族同士など地域の市民で助け合いが生まれてくる。そういった支え合いから地域の中に自立した高齢者が増えていくのである。そのため、居場所が支え合いの地域を創るには必要だと思った。

#### ● 理解したこと

地域の中に介護保険を利用しての施設はたくさんあっても、はっぴいわん大府のような誰でも自由に来ることができる場所はほとんどないと知った。しかし、これから高齢化がどんどん進んでいくと、デイサービスなどを受けられない人も出てきてしまう。そういった時に誰でも利用できる場所が今後地域の中にはさらに求められる。代表者の久保田さんが「はっぴいわん大府はこれからの自分のためにもやっている」と言っていたように、居場所があり、その中で助け合いの仲間作りができれば、自ずと暮らしやすい地域になると思う。それが自分を含め地域の人たちにとってプラスになっていくのだと感じた。

#### ● 成長したこと

今まで地域について考えることがほとんどなかったし知ろうとしていなかった。しかし活動を通して自分の住んでいる地域にも関心を持つようになった。地域に目を向け高齢者にとってどうやったら住みやすい町になるのか考えるようになった。(佐藤)

サービ斯拉ーニングではっぴいわん大府へ行き色々な人と触れ合う中で、初めは不安だらけだったのが、途中からは楽しさに変わった。前に踏み出したり、新しいことに挑戦したりすることはなかなか勇気がいることだと思う。今回、活動にあたり事前学習、事前訪問を含めて初めてのことばかりだった中、踏み出すことの楽しさを知れたのは大きいことだと思う。今回感じることができた、自ら地域に出ることの楽しさ、自分で問題を追究することの難しさや面白さは、これからの大学生活や社会に出た時の糧にしていきたいと思う。(兼松)

## 6. 活動先への提案

はっぴいわん大府では、利用者さんが趣味で作った野菜やアクセサリー・小物などを施設内で販売されている。利用者さんも自分が作ったものが他の人に喜ばれるのであればうれしく思いそれが生きがいにも繋がっていくのであろう。現在は、はっぴいわん大府内で売られているが、これを地域の方がもっと集まる場所を借りてみんなが作ったものやいらなくなったものを持ち寄ってバザーを開いたらどうだろうか。そうすることによって地域

の中で交流がうまれるだろう。新しい出会いに利用者さんもさらに楽しみが増え生きがい作りにつながっていくのではないだろうか。そして、こういった活動をすることによってボランティアで居場所を提供している場所があることを知ってもらい、地域にはもっと居場所が必要であることを少しでも多くの人に伝えることができればいいと思う。

また、今回私たちが活動で出会った地域に暮らす一人の男性。はっぴいわん大府に展示してある趣味の絵手紙を嬉しそうに見せながら、色々な話をしてくれた。その時の生き生きとした表情がとても印象的だった。しかし、はっぴいわん大府では男性の利用者さんがほとんどいないのが現状である。男性の方が女性に比べて皆でわいわい話をする場所に行きにくいからなのかと思った。しかし、そう考えている人たちにも皆で集まることの楽しさや生きがいを伝えられたらいいと思う。そのためにも、はっぴいわん大府がきっかけ作りの場となる必要があると思う。

## 7. 次年度活動をする学生へ

はっぴいわん大府では、利用者さんやスタッフさんの生き生きと1日を楽しんでいる姿をみることができる。とてもアットホームな場所ですぐに馴染むことができると思う。また、スタッフさんと話ができる機会が多くある。普段の生活では同年代の人たちと話をすることがほとんどだと思うが、この活動を通して人生の先輩の貴重な話をたくさん聞かせてもらえると思うのでとてもいい経験ができるはずだと思う。わからないことや知りたいと思うことがあったら積極的に話かけることが大事である。活動をする前に何が自分にできるのか何がしたいのか明確にしておかないと活動先にいってもすることがなくなってしまおうと思うのでしっかり計画を立てておく必要がある。(佐藤)

はっぴいわん大府では、まずその雰囲気の高さに触れ合うことができる。スタッフの方や地域の方の話し声や笑い声が絶えない空間。そのような中で体験し、身を持って居場所の重要性、生きがいというものの必要性を感じ取ってほしいと思う。今回私たちは、自ら企画をした活動参加はできなかったけれど、はっぴいわん大府では他の活動先と比べ、理事長の方やスタッフの方、地域の方から話を聞く機会が多くあった。特に、直に理事長の方からはっぴいわん大府を立ち上げる際の話や、地域に対する熱い想いを聞くことは、自分にとってとてもいい刺激になった。やはりここまで自分の想いを形にしてきた人の話は、今まで考えなかったことについて考えるようになったり、気付くことが多くあったりと色々な発見ができるきっかけとなる。その発見を大事に、はっぴいわん大府での活動を楽しんでほしいと思う。また、私たちはできなかったが自ら企画してはっぴいわん大府と関わることも面白いと思うので、様々な発想を持って活動に挑み、また新たな発見や経験をしてほしいと思う。(兼松)